

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0873700488		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館玉造		
所在地	茨城県行方市玉造甲476-1		
自己評価作成日	平成29年5月4日	評価結果市町村受理日	平成29年8月2日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>ご利用者様の生活習慣を大切に、一人ひとりがその人らしい生活を送れる環境を提供している。</p>
----------------------------------------------------

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873700488-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873700488-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>法人理念をもとに事業所理念を作成し、目標設定をしている。スタッフは年齢や経験が様々である。利用者ができる事や好きな事が笑顔で自由にできるように支援している。年々利用者の介護度が上がっているが、状態を見てボランティアの協力を得ながら支援している。外出レクリエーションは、2ユニット合同で行けるように工夫している。敷地内の畑には、季節の野菜や果物を植えて収穫を楽しんでいる。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成29年6月14日

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の交流を大切にしグループホームという施設を地域の方々に理解していただけるような理念を掲げている。	朝夕の申し送り時に、理念を唱和している。スタッフ一人一人が、笑顔を絶やさず支援できるように、理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りなどの地域行事に参加させて頂いている。また、地域の方とは、運営推進会議を通して地域交流をしている。	地域行事のお祭りに参加している。高校生の体験学習を受け入れている。近隣施設と合同でボランティアを迎え、演奏会や踊りを楽しんでいる。	年々、利用者の介護度や小学校の合併、立地状況などにより、地域との付き合いが減少している。日常的に地域交流ができる支援について検討して頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し地域住人へ働きかける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子、行事の報告参加の声掛けをしている。意見、要望を受けサービスの向上に努めている。	偶数月の第一月、火曜のどちらかで年6回、民生委員、行政、家族、自治会長が参加をえて行っている。行事報告やインシデント報告、意見交換を行い、日々の支援に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	possibleの限り直接市役所へ届け出るようにしている。保護担当者とは密に連絡をとり、相談に応じて頂いている。	生活保護の担当が定期的に訪問している。地域包括より連絡をもらい、情報交換や勉強会に参加している。ケアマネージャーは、連絡協議会に参加して、意見・情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	問題行動をバリデーションを活用し違う視点より見つめるようにしている。ケアカンファレンスを行い人生の先輩と認識し業務に携わっている。	法人として身体拘束をしないケア、権利保護などについて、年4回研修会を行っている。全職員参加としているが、DVDに残して欠席者も確認できるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスなどを行い人生の先輩と認識し常務に携わっている。申し送りなどを活用して細かく状態が分かるようにしている。身体拘束についてのマニュアルがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度を理解し必要性を認めたら早急に対応できる体制を整え支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約改定等の際はご家族様に十分納得を得たうえで同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が出た時はその都度納得して頂けるように説明する。相談や苦情は随時受け付けている。要望があった際にはケアプランに組み込んでいく。	利用者からは日々の支援を通して意見を聞き反映している。家族には毎月の玉造便りを郵送し日々の利用者の状況をお知らせしている。お便りと共に意見を頂けるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事採用に関しては本社に一任しているが利用者の受け入れ継続の可否等はスタッフの意見を聞き入れながら取り組んでいる。他のいっしん施設への紹介も行っている。	法人全体研修会を定期的に行っている。毎月のモニタリングはユニット合同で、情報交換を含めて行っている。エリアマネージャーや管理者に相談しやすい環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	担当マネージャーがケアカンファレンスに参加をし、色々な意見を吸い上げ、会社の方向性を職員に伝えるとともに、職員1人1人がやりがい、向上心が持てるように助言・アドバイスをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を随時行っている。又現場において能力に応じた指導を行っている。社内研修を定期的に行い内容を職員全員が周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネの定例会や市の研修会などに参加し情報の共有化を図り質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一対一で話せる場面作りをしている。入居前の面談にて希望を伺い、それに合ったサービスが出来る様に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ユニット出入り口に御意見箱を設置し気軽に意見を出して頂けるようになっている。電話などで話したり面会時間を作り話す場面を設けている。契約時に家族様のご意見を聞きケアプランを作成し説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの入居にあっているか見極め他のサービスが適していると感じたら家族様と相談し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として昔の習わしや料理、畑の作り方など教えて頂いている。料理など一緒にし同じ物を一緒に召し上がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂ける様に支援し何かあれば家族様は相談・連絡・報告をしている。月に一度は写真付きのお便りを出し、電話など掛けたい時は掛け、不在で心配してしまう時もあるので予め繋がる時間を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お便りや電話や面会される。時には馴染みの場所に外出や買い物に出掛ける。	家族や友人の面会が日常的に行われている。以前は自宅へ定期的に外出していた利用者がいたが、現在は行かれなくなってしまっている。今後は写真などで自宅の状況を知らせていきたい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も上手に輪の中に入り自然とコミュニケーションが取れている。世話役の方には出来る限り役割を發揮して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所は、グループホーム、有料老人ホーム、高齢者住宅の三本柱になっている。事情により退居になってしまった後も相談を受け状況に合わせ支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の話や傾聴し御本人様の希望を見出し把握していく。意見表示の少なく選択等の場作りが乏しいが細かい事柄でも、まず利用者様に聞き選択の機会を多く作っている。	日々の支援を通し、表情や言動などから思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全スタッフが利用者様の生活歴を把握し家族様に昔の話を聞き、それを率先して行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・申し送りを活用している。一人ひとりの状態に合わせて過ごして頂いている。テレビが好きな方はテレビを見て頂いたり、散歩が希望の方は散歩に行ったりと個々に合わせて行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様の意見を取り入れ良い生活が出来る様に作成している。必要な時には専門職に相談し月一回のモニタリングとアセスメントをスタッフ全員で行い介護計画に反映させている。状態の変化があればその都度検討している。	6か月または随時、計画の見直しを行い家族に説明し、確認して実践している。モニタリングはユニット合同にて行っているため、多くの情報をもとに作成できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の様子をケース記録に時間事に記入し必要な時には申し送り帳に記入している。業務日誌も活用しケアカンファレンス時は話し合いをし介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所は、グループホーム、有料老人ホーム、高齢者住宅の三本柱になっている。また、医療行為が必要な時は連携している病院に相談し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来て頂いたり、地域の行事へ参加している。また、地域のスーパーに買い物に出掛けたり、外食している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず御本人、家族様の希望を確認した上で医療機関に受診している。	内科、外科の往診を定期的に着けている。突発受診については、家族に連絡して受診している。付き添いは家族が基本だが、依頼されることが多い。家族が付き添えない時は、結果を電話連絡のみ行っている。今後は結果を含めた詳細について、記録に残していくように検討していく。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回のペースで往診に来て頂いており、ご利用者様の健康管理をしている。また、常に相談出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会と担当医師、看護師から病状説明を受け早期退院に向け連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしい生活を送って頂き体調の変化に気づき医師に連絡をしている。状態変化に伴い医師・家族様・職員が話し合いを持ち、より良い対応が出来るように取り組んでいる。	契約時に病状に合わせて看取りについて話し合っていく事の同意を得ている。看取りについての要望があれば、医師、家族、スタッフと話し合いながら、支援に繋げていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置が出来る様にマニュアルや薬箱を揃えて応急手当は出来る様にしている。新人職員等の研修を行いカリキュラムの中に取り入れている。全スタッフは救命救急講座を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回行い、緊急時に全スタッフが対応法を身に付けている。夜間を想定した避難訓練も行っている。地域との協力体制は、運営推進会議の際に呼びかけている。	年2回の日中夜間想定にて避難訓練を行っている。他の施設火災などを踏まえ、職員だけでも夜間の訓練のシュミレーション参加について検討していく。また、震災の発生時の対応について、マニュアルの確認、見直しシュミレーションを行い検討して頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声掛けをする場合等、御本人様を傷付けないような声掛け、対応、声のトーンにも配慮している。	人生の先輩として尊重し、トイレ誘導やスピーチロックなど、プライバシー確保に努めている。重要事項書類において、個人情報の同意が項目ごとに確認できるよう検討して頂きたい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で信頼関係を築き、個人の意見を尊重し決定権を御本人様へと努めている。また、決定する事が難しい場合には助言をしながら決定出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・トイレ・入浴の時間を決めずにその人に合わせている。また季節の習わし等を取り入れ出来る限り希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染め・化粧などのおしゃれの支援をしている。また、訪問理容店があり希望があればいつでも来て頂ける体制になっている。好みの服など一緒に買い物に行き選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立を作成しご利用者様の好みのメニューを入れ提供している。また出来る仕事の分担を決めお手伝いを可能な範囲でお願いする場合もある。	献立は食事担当がユニット毎に1週間交代に考えている。食材は、3日～4日ごとに買い物に行っている。とろみの使用やきざみ食の提供については、スタッフ間で話し合っている。誕生日には手作りケーキを作りお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の水分の目安は表にしている。食べる量が決まっている方は何を何グラムと表示し写真に出している。一日の食事量・水分量などチェック表に記入しいつでも見られるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその人に合った口腔ケア方法で行い状況に応じて介護し清潔保持に努めている。月二回歯科往診がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導が出来る様に支援している。自立された方にはトイレの場所がわかるように明示している。	自立度に合わせて布パンツやリハビリパンツを使用している。視力低下に伴い転倒リスクがあるが、自覚がなく移動する利用者の靴に鈴をつけて転倒予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防になるように細目な水分提供、食物繊維が豊富な食品を献立に取り入れる工夫をしている。天気に応じて散歩を取り入れて体を動かせるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望を重視し好きな時間に入浴出来る様にして、その人に合った温度にし、快適に入浴剤を入れたり気分転換をして頂いている。	週3回～4回の入浴支援を行っている。利用者の要望に合わせて、午前中に行っている。自立度に合わせてシャワー浴にするなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温管理に注意したり寝具を干したりして清潔に寝やすい環境を提供している。また眠れない時には話を聞いたり飲み物を提供する事で心の安定を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容を理解し指示通り服薬出来る様にしている。薬の変更があったり飲み合わせの悪い物などは申し送りを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・畑などご利用者様がそれぞれの役割を持ち張り合いのある生活を過している。レクや季節行事など楽しみも多く行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外に散歩・ドライブに行ったり地域の飲食店に外食に行くようにしている。お墓参りの要望があった場合にはご家族様に連絡し計画を立て出掛けている。	四季折々に合わせて、ユニット合同で外出・外食支援を行っている。希望により、スーパーに日用品の買い物に行く。地域行事への外出や外泊の頻度は減少している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は持たないがご家族との相談のうえ預かる場合は本部管理とし出納時にはレシートを添付し明確にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は利用したい時にしてもらい知人の方など面会に来られた際は御礼状を書いて出している。ご家族様からも進んで行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・ホールなどの写真や季節の花を飾っている。窓には菖蒲や簾で日よけし夏を過ごしている。玄関・トイレは常に清潔に心掛けている。こまめに換気をし空気清浄器を置いている。	法人特有の共有空間作りとなっている。しかし、装飾についてはスタッフの思考により、季節の工夫と外出写真が飾られ、利用者一人一人の表情が見れるようになっている。玄関には、利用者とスタッフが分かるように、顔写真の表示がされているが掲示の意図について検討していく。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、和室にはテーブル、冬には炬燵、また車椅子の方が自走して入れるテーブル炬燵を置き話の出来る場を持つ環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用具を持ち込んでもらいその人の居室作りをしている。また家具の配置にも気を配り安全で快適な居室作りをしている。	テレビや椅子、家具など馴染みの物が置かれている。家族写真や絵画、花、飾りなど、居心地よく過ごせるような工夫がされている。居室の清掃は、自分でできる利用者は職員と共に、できない方は職員が随時行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており全体に手すりが付いている。滑りやすい階段、浴室には滑り止めをつけ清潔感を心掛け誤認錯覚アクシデントの原因になる物は置かない。居室入口には目印を貼りわかるようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームいっしん館玉造

## 目標達成計画

作成日: 平成 29年 8月 2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	年々、利用者様の介護度や小学校の合併、立地状況などにより、地域との付き合いが減少している。日常的に地域交流ができる支援について検討をする。	近隣、小中学校・幼稚園などとの交流が定期的かつ持続的にできるようになる。	小中学校・幼稚園などに出向き、地域交流のためのイベント企画・提案をしていく。	12ヶ月
2	30 (11)	突発的な受診の際の詳細を、申し送り帳には残しているが、個人別の記録に残していない。	受診担当者がいつどのような対応を、ご家族のどなたに申し伝えたか、など明確にし後々のご家族間のトラブルを防ぐ。	往診以外の外部受診の記録表を、個人別に作成し記録に残す。	3ヶ月
3	35 (13)	震災発生時の詳しい対応策をマニュアルとして残しておけるように検討した方が良い。	震災時に、職員が慌てないように具体的なマニュアルを作成する。	社内全体の会議にて、震災時の具体的な対応策を含めてのマニュアル作成の検討を行う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。